

KG JOURNAL

関西学院通信 [関学ジャーナル]

特集

Special

世界市民を育む、学びがある。

教員が語る 研究はこんなに面白い!

数字でみる関学
関学生が重視する暮らし方
突撃! KG CLUB
体育会 準硬式野球部

2017.7.3
256号



学長の ポケット レポート

問題意識と粘り強さ

理工学部を除けば学生の皆さんは、先生方の研究内容を直接知る機会が少ないのではないのでしょうか。また、「研究=勉強」と誤解して、大学の先生方は勉強が好きな変わり者と思っていないでしょうか。実は、大学教員も含めて研究者は、自分の研究分野が面白くて仕方ないと感じています。その意味では、(勉めて強いられる)勉強と研究とは全く異なります。

それでは、研究者を研究に駆り立てる推進力は何でしょうか。それは、自然現象や社会現象、あるいは人間の行動についての疑問(問題意識)と、その疑問を解き明かしたいという好奇心だと思います。しかしながら、問題意識と好奇心だけでは、研究上の疑問を解明することはできません。疑問を解決するための粘り強い努力が必要です。自然科学であれば難しい数の実験であり、人文科学や社会科学では、粘り強い資料収集や解釈、モデル分析や実証分析が必要となります。

しかしながら、この問題意識や粘り強い努力は研究者だけに必要な資質ではないと考えます。皆さんが社会に出たときに直面する仕事上の課題や問題には予め定まった解決策はありません。むしろ、何が問題なのかを探ることから始めなくてはならないでしょう。まさに、問題意識が問われます。さらには、問題の所在がわかったなら、それを解決するために粘り強い努力が必要となってきます。この問題発見と解決への努力を繰り返すことによって、仕事が面白くなり、他の領域の課題への好奇心が湧いてきて視野が広がってくるのだと思います。

そのように考えますと、大学時代の専門分野の探求が、実は、社会に出たときの重要な訓練となっていることがわかってと思います。学生の皆さんには、自分の専門分野の探求に徹底的に打ち込んでほしいと心から希望します。
(学長・村田 治)

表紙へ

(伊勢 優香さん)
教育学部1年生



4、5月に米国・フロリダ州で行われたチアリーディングの国別世界大会「ICU World Cheerleading Championship 2017 (ICU世界選手権)」Team Cheer Hip Hop部門と、クラブチームの世界大会「THE CHEERLEADING WORLDS CHAMPIONSHIP 2017 (The

Dance Worlds)」のOpen Coed Hip Hop部門に出場し、両大会でチアヒップホップの世界一に輝いた。

チアヒップホップとは、ストリートダンスの各ジャンルのスキルを基礎とし、チア特有の柔軟性やテクニクを生かしたものだ。伊勢さんの出場した部門は男女混合の団体競技で、審査の点数で競う。

ICU世界選手権は110カ国が参加。日本代表は予選を3位で通過した。気温が35度を超え、予選から体力が激しく奪われる状況だったが、伊勢さんは「今まで厳しい練習してきた。自分の全てをここで出す」と自身を鼓舞し、本戦に

挑んだ。

本戦では息の合ったダンスを披露し、明るさと元気で会場も盛り上げた。その結果、予選1位の米国など強豪国を抑えて逆転優勝。伊勢さんは初の金メダルを手にし、「うれしすぎて実感が湧きませんでした」と振り返った。続くThe Dance Worldsでも他国のクラブを圧倒。高い評価を得て、再び金メダルを手にした。

「クールなヒップホップ、見る人に元気を与えるチアの両方を合わせるのには難しいけれど、それ以上にやりがいを感じます。世界連覇を目指したい」と笑顔を見せる。

KG JOURNAL

関西学院通信 [関学ジャーナル]

No. 256

CONTENTS

- 1 学長のポケット表紙人
- 2 特集 世界市民を育て、学びがある。教員が語る 研究はこんなに面白い!
- 9 就職の窓 就職活動を継続中の4年生&M2年生に向けて キャリアセンターでは今後も多彩な就職活動サポートを実施します! シューカツに勝つ
- 11 ひとひと
- 13 Research & Research 総合政策学部 清水 陽子ゼミ 理工学部生命科学科 北條 賢研究室
- 15 突撃! KG CLUB 体育会 準硬式野球部
- 17 My favorite KG 呉 迪さん(中国) GO Global! 岡村 咲希さん(人間福祉学部3年生)
- 18 数字でみる関学 関学生が重視する暮らし方
- 19 Campus News 関学カプセル 学院通信
- 23 私に言わせて! 保護主義の影響
- 24 世界の街角から フィリピン 川口 了子さん
- 25 Libraring 西宮聖和キャンパス図書館 長期休館のお知らせ
- 26 聖書に聞く 国際学部宗教主事 平林 孝裕

特集 Special

世界市民を育む、学びがある。



教員が語る 研究はこんなに 面白い!

11学部を擁する関西学院大学では、700人以上の教員がさまざまな分野について日々研究をしています。何を目的にどのような研究が行われ、授業ではどのような指導がされているのでしょうか。12人の教員に、それぞれの研究や授業、今後の展望などを話していただきました。研究の面白さを感じてください!



KWANSEI GAKUIN

神学部

キリスト教の倫理をテーマに、その理論と実践について研究しています。キリスト教だけでなく、多くの宗教が重要な理念として掲げている無償の愛や、人助け、協力がいったい、いわゆる人間の利他性に関心があり、そうした考えや行動のメカニズムと起源を明らかにしたいと考えています。



宗教には、一見、自分には何の得にもならないような利他的な価値判断や行動を良いとしているものも多くあります。私たち人間は、自分の得になるように、生存にとって有利な判断や行動をする一方で、「他人のため」という考えや行動に対しての一種の憧れのようなものを持ち、それが価値判断のよりどころや行動の基盤となっており、人助けなどの行動をしていることも事実です。私はこうした現象を、哲学的に、そしてできるだけ限定的な視点から研究したいと思っています。



研究・教育以外の時間は子どもといるため、学生とのコンパも自宅でホームパーティーにすることが多く、ゼミ合宿も子連れ。教員として指導する立場ではあるが、子育てに関しては学生たちに助けられているという。

Tami Yanagisawa

柳澤田実 准教授

欧米では、最近のテロなどの影響により、宗教研究に対する社会的関心が高まっており、経験科学を用いた宗教研究が進んでいます。しかし、日本では経験科学を用いた宗教研究はほとんど行われていないのが現状です。このような事情もあり、今年の秋はアメリカに留学し、実験心理学や認知科学を用いた研究方法について勉強する予定です。そこでの学びを生かして、今後の日本における宗教研究を活性化していきたいと考えています。授業やゼミでは、知識を伝えることよりも、物の見方、問題の切り出し方

を学生と一緒に探っていくことを大切にしています。本を読んでそこから問題を見つけることも一つですが、学生には自分の目で物事を観察して、問題を見つけてほしいと思います。現在、世界で起きていく多くの出来事には宗教や特定の信条が関わっています。日本にいるとそのような実感は乏しいかもしれませんが、国際的な事柄に目を向け実際に関わると、宗教の重要性や影響力が理解できるはず。今後、教育においても、研究においても、宗教に関わるさまざまな諸現象について、広い視野と科学的な姿勢を持って考察することを大切にしていきたいです。

PROFILE

ニューヨーク生まれ、静岡県で育つ。慶應義塾大学文学部卒、東京大学総合文化研究科博士課程修了、博士(学術)。2013年から現職。専門は哲学、キリスト教思想。キリスト教文化関係の授業を担当。編著書に「ディスポジション: 配置としての世界」[倫理: 知のエコロジカル・ターン 3巻「可能性を尽くす楽しみ、可能性が広がる喜びー倫理としての生感心理学」(分担執筆)など。



文学部

「幼児がどのようにして母語の知識を獲得するのか」が私の研究テーマです。



不思議なことに、母語の知識は、生後数年のうち誰かが自然と身に付けることができます。それを説明する仮説として、「人には母語獲得専用の仕組みが生まれつき備わっている」という提案がなされています。この仮説によれば、幼児は生まれながらにして言語の本質的な部分についての設計図を持っているため、大人と同質

の知識を早い段階から身に付けていることが期待されます。私は、主に英語と日本語の獲得過程をさまざまな手法を用いて調査し、その仮説の妥当性を検証しています。具体的な調査方法の一つとしては、3歳から6歳の幼児を対象に、写真を撮りながらお話を聞いてもらい、その後調査対象となる言語現象を含んだ質問を行います。例えば、「〜のこと」という表現は、目的語にしかつかないとい



子どもと遊ぶのが大好き。休日は、息子やその友達といろんな場所に出掛け、一緒に楽しんでいる。息子がレゴ好きということもあって、最近は今古屋の「レゴランド」に頻繁に出発。

ださんのことが好きなのは誰かな?」という質問をして、大人と同じ答えをすることができると調査します。さまざまな言語現象について調査を行いました。普段は単純な言葉で話している幼児たちにも、複雑な知識が備わっていることが明らかになってきています。今後は、調査対象を英語・日本語以外に広げるとともに、より年齢の低い幼児について

の研究を進めたいと思っています。私の授業では、グループワークを活用し、学生が能動的に議論する機会を設けています。スライドも使用していますが、説明用とノート用のスライドを分け、説明がしっかりと伝わるように工夫しています。

海外の大学院に所属していた時には、自分の研究について他国の研究者とたくさん議論することができ、その経験が今でも研究の原動力になっています。学生の皆さんには、大学生活を通して、自信を持てるものを入れてほしいです。自分にはこれができるよ! になろうという経験は、必ず将来を支えてくれる力になると思います。

PROFILE

東京都出身。上智大学外国語学部卒、コネチカット大学大学院言語学博士課程修了、Ph.D.(Linguistics)。三重大学文学部教授などを経て、2017年から現職。専門は言語理論に基づく母語獲得研究。心理言語学や実践英語学資料研究などを担当。著書に「はじめての言語獲得ー普遍文法に基づくアプローチ」など。



Koji Sugasaki

杉崎 鉦司 教授

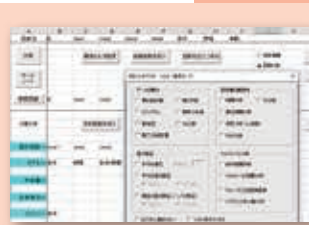
社会学部

友人や恋人、家族といった親密な人間関係がどのような「コミュニケーション」でうまく成り立っているのかを研究しています。

多くの人は親密な人間関係を、いわゆる「キヤラ」をつくる必要がなく、「自分らしく」あることができる空間だと考えていると思います。しかし、実は親密な関係の中にも暗黙の規範があります。友人関係を例に出すならば、「隠し事はしない」「困ったときは助け合う」などといったものです。こ



うした規範がどのように発生し、なぜ存在しているかについて研究を進めています。他に、文化によるコミュニケーションの違いにも興味があります。日本人の場合、お願いをするときに遠回しな言い方をすることがあります。お金を貸してほしいときに「ちょっと今、お金がないんだけど」と言ってみたり、引越を手伝ってほしいときに「引越して忙しいんだよね」と



趣味はプログラミングで、大学生の頃から独学でコツコツ勉強。気付いたら統計分析ができるソフトを作っており、自身のWebサイトでフリーで公開中。今はこのソフトを使って統計の授業をしている。

研究の主な方法は質問紙調査で、恋人や友人関係の二人をペアで調査することが多いです。同じ内容の調査票を渡し、それぞれの回答を比較します。これまで数多くの調査をしてきましたが、親密な関係には、個人個人が持つ感情(愛情とか友情)よりも、二人の相互作用や共有された考え方が大きな影響力を持っている、ということが分かってきました。

Hiroshi Shimizu

清水裕士 准教授

授業やゼミでは、学生が自主的に研究を進められるような環境づくりを大切にしています。心理学は積み重ねが必要なので、まずベースとなる知識や考え方を効率的に身に付けられるような授業やゼミの運営を心掛けています。大学生生活は、学びの使い放題が可能な唯一の時期です。関西学院大学には、素晴らしい研究環境や先生方をはじめ、学ぶための資源がたくさんあります。学生には、その資源を存分に有効活用してほしいと思います。いろいろな講義に出たり、違う学部の先生と研究について話したりすることで、自身の分野の学びがさらに深まるはず。もちろん私に聞きたいことがあれば、いつでも尋ねてください。



PROFILE
大阪府出身。関西学院大学社会学部卒、大阪大学大学院人間科学部研究科博士後期課程単位取得退学、博士(人間科学)。2015年から現職。専門は社会心理学、心理測定学。社会心理学A・Bやデータ分析(応用)などを担当。著書に「社会心理学のための統計学」(共著)など。

法学部

私

はこれまで、20世紀におけるスペインの政治史、特にフランコという独裁者による独裁政治(1939-75年)について研究してきました。また、フランコ独裁期とちょうど同じ頃、スペインの隣国ポルトガルにはサラザールという独裁者がいて、彼の独裁体制(1932-74年)についても研究を進めてきました。現在はこの二つの独裁体制を比較しながら研究を進めています。ま

特集 Special

世界市民を育む、学びがある。



た、比較を通じて得た分析や知識を、現代の非民主主義体制について考える上で生かすことはできないかと模索している最中でもあります。研究は、フィールドワークやインタビューではなく、文献や史料を読み込むことが中心になります。もちろん、スペインやポルトガルには何度も足を運びました。それは現地の史料館に行くと、そこでしか読むことができない史料を読むためです。アメリカやイギリスの政治史に関する史料はインターネットで手に入られるものも多いです。しかし、スペインやポルトガルについてはそうはいかず、現地で見ることができない史料がたくさんあります。

た、比較を通じて得た分析や知識を、現代の非民主主義体制について考える上で生かすことはできないかと模索している最中でもあります。



種類を問わず、世界のさまざまなお酒をその土地の味わうのが趣味。スペインやポルトガルは、ワインはもちろん、ビールもおいしい。「ビール博物館」にて。

年に2回、春と夏に2週間ずつは現地を訪れるようにしています。担当する科目は「西洋政治史」と「政治史B」です。現代のことも日本のごとでもないため、学生にとってみれば「なぜこれを勉強しないといけないの?」と思うかもしれません。しかし、ヨーロッパの歴史から学ぶことは非常に多いです。例えば、最近よく耳

武藤 祥 准教授

Sho Muto

にするEUや難民について考えるには、歴史の知識が必要で、そうした背景を理解してこそ深い考察ができると思います。ヨーロッパの面白さを少しでも学生に理解してもらおうと、授業では、私自身のヨーロッパ滞在時の体験談などを話して、その魅力を伝えるなどとしています。



PROFILE
福島県出身。立教大学法学部卒、東京大学大学院法学政治学研究所科博士課程単位取得退学、博士(法学)。立教大学法学部助教、東海大学政治経済学部准教授などを経て、2016年から現職。専門はスペイン政治史、比較政治学。西洋政治史などを担当。著書に「『戦時』から「成長」へー1950年代におけるフランコ体制の政治的変容」「ヨーロッパの政治経済入門」(分担執筆)など。

経済学部

Shohei Tamura

田村翔平

専任講師

私の専門であるメカニズムデザイン理論は、社会における資源配分や公的意思決定の制度(メカニズム)の望ましい設計(デザイン)について分析、考察する学問です。

資源配分や意思決定を行うとき、そこには必ず人々の「意見」や「好み」が大きく関わってきます。しかし、それらは本人にしか真偽が分からない私的情報であるため、意思決定の仕組みがきちんとしたものではないと、人々のうそや戦略的判断によって望ましい



料理が趣味で、いろいろなジャンルのものを作る。写真は、東南アジア周辺で人気の「海南風チキンライス」。最近作り方を覚えたそう。

い決定が実現しない、いわば、効率的でない決定や公平でない決定が実現してしまうことがあります。メカニズムデザイン理論は、このよう

な人々の戦略的行動をきちんと考慮して、常に望ましい決定が実現するように制度を設計することを考えます。例えば、この理論によって設計された制度は、医学部生と彼ら

を研究して、常に見たい決定が実現する紙とペンを使ったもので、自分が

立って仮説を数学的に証明していきます。研究を進めていくことで、より良い意思決定の制度、つまり、真の受賞者や最もふさわしい仕事の担当者を選ぶことができる制度作りを目指しています。

PROFILE
宮城県出身。東北大学経済学部卒、同大学院経済学研究所博士後期課程修了、博士(経済学)。2017年から現職。専門はメカニズムデザイン、社会的選択理論。市場と制度の経済学、経済学のための数学入門などを担当。

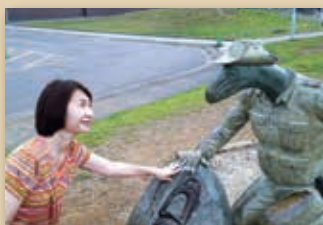
商学部



イノベーション論を専門に研究しています。イノベーションとは、新しい知識や製品、またはサービスを生み出すことです。イノベーション論の研究には、二つの柱があります。

一つ目は、イノベーションが社会に影響を与えるまでのプロセスについての研究です。新しく生み出された製品やサービスが、消費者の生活にどう影響し、それによって人と人の関わり方や行動、ひいては社会にどのような変化が起

るのか、そのプロセスを研究します。二つ目は、国ごとのイノベーションが起る頻度の違いとその理由についてです。



博物館が大好きで、気に入った館は何度も訪れます。写真は、福井県立恐竜博物館を2度目に訪れた時。

例えばアメリカではイノベーションが活発に起きますが、他の先進諸国ではそれほどでもありません。イノベーションが起きやすい社会とそうでない社会の違いは何なのかを研究します。

私が研究を通して分かってきたことは、「一人が活発に出たり入ったり



安田聡子

教授

PROFILE

長崎県出身。上智大学(学士)、カリフォルニア州立大学(修士)を経て東京大学大学院先端学際工学専攻修士、博士(学術)。東京大学先端科学技術研究センター特任助手を経て、2006年に関西学院大学着任、15年から現職。専門はイノベーション論、知識移転論。グローバル経営論、イノベーション経営などを担当。

人間福祉学部

Ikuho Sasaba

笹場育子

専任講師



プロ選手や五輪選手を対象にメンタルトレーニングを行い、本番で最大パフォーマンスを発揮できるスポーツ心理学を追究しています。

世界の舞台上で戦う一流選手は、どの選手も体力、技術は最高水準に達しているといえます。「応援の力で120%の力が出た」ということもあり得ますが、基本的には積み重ねた練習や準備に基づき、プレッシャーのかかる本番で最大の實力を発揮できるかが勝負の命運を分けます。そこで大きな武器になるのが精神的な部分

である「心」です。

しかし、「心」は見えないもので、人それぞれ。実際のアシリートに対する心理的支援の中で、「心の変化」に対して、何をもちて効果とするのが大きな課題です。

そこで、本来人間が持ち合わせている定性的な「心」と、定量的な「身体」の相互関係に着目しています。数字で表すことのできない選手の言葉や行動の変化を収集して定性的に分析。同時に「心」を落着けるためのスキルの一つである呼吸法を実践してもらい、「身体」に起きている変化を定量的に調べ



趣味は海外旅行で、知らないの世界を見るのが大好き。最近ではイタリアを満喫。

ます。選手は双方向から自分の状態を理解し、より良い心の整え方を身に付けます。

えていけるようにサポートしています。また引退した選手の第の人生についても心理的な支援をしています。この活動も、研究の二環となっています。

今は研究を続けながら、2020年の東京五輪に向けて、選手と目標達成を目指して歩んでいます。このような知見は、私たちの生活にも応用できます。将来的にはスポーツにとどまらず、より広い社会へ向けて研究成果還元したいと思っています。

大学生活は、最も好きなことに打ち込める期間です。さまざまな人の生き方や考え方を知り、自分の価値観を広げてください。それが将来の大きな成長につながるはずです。

国際学部

主な研究分野は「移民」です。特に、オーストラリアに移住する日本人や、島根県隠岐郡海士町(中島)へのターナー移住者(都市から地方への移住者)の研究をしています。彼らはかつての移民とは違い、移住しないとき生きていけないうちはありません。経済的理由以外の要素を主眼として移住する彼らは「ライフスタイル移民」と呼ばれ、私は彼らの移住と定住のプロセス、そし



て移住後の地元社会との相互作用や他の移住者との社会的関係について研究しています。この分野の研究は、自分の足を使って調べることが基本になるので、まずは、研究対象の生活に長期間入り込み、そこで人間関係を構築していきます。その後、聞き取り調査などをして研究を進めます。大学院にいた2005年からの5年間はオースト



釣りはバス釣り、特には湖釣りに興味があります。釣りに関する情報は、釣りの雑誌や釣り場に行くときに必ず見かけます。釣りに関する情報は、釣りの雑誌や釣り場に行くときに必ず見かけます。

リアで過ごし、現地の日本人組織や、若者のネットワークと関わりながら研究を進めました。

海士町には毎年行くようにしていて、毎回1週間ほど滞在します。ゼミ生を連れて行くこともあります。各地方から若い人材が移住してきている海士町は活気があり、ターナー移住の成功事例として日本中から注目されています。また興味深いことに、移住した人の多くが踊りなどの地元の伝統芸能に関わっています。移住者は、よそ者と地元住民の中間に属しているため、地元社会との相互作用や自身のアイデンティティーの揺らぎなど、さまざまな要素が関連して地元の文化

への関心につながっていると考えられます。授業では、双方向の授業を心掛けています。積極的な学生が多い国際学部では、200人規模の大講義でも学生が発言し、活気があります。自分とは違う価値観や考え、意見に触れることで新たな発見が生まれると思っています。私は、学生時代に貧乏旅行をたくさんして15カ国以上を訪れたと思います。自分とは異なる文化や価値観を肌で感じることで多くのことを学びました。学生たちにも、外の世界にどんどん足を運んでほしいと思いますし、それがさらなる興味につながっていくと思います。

Jun Nagatomo 長友 淳 准教授



PROFILE

宮崎県出身。慶應義塾大学総合政策学部卒、クイーンズランド大学社会科学部大学院Ph.D. (Sociology)取得。2010年から国際学部在籍。専門は移民研究、オーストラリア社会、グローバル化論。文化社会学、文化人類学基礎、Sociology of Cultures in Transitionなどを担当。著書に『オーストラリアの日本人—過去そして現在』『グローバル化時代の文化-社会を学ぶ』『Migration as Transnational Leisure: The Japanese Lifestyle Migrants in Australia』など。

教育学部

Yuko Hashimoto

橋本祐子 教授

乳幼児の発達心理学が専門で、就学前の子どもについて「社会性・道徳性の発達」と「遊び」の二つを軸に研究しています。

「社会性・道徳性の発達」については、子どもがどのように責任や負担を公平に分担するかにについて研究しています。お菓子やおもちゃといったご褒美の分配についての研究は世界的にかなり進んでいるのですが、片付けなどの負担の分担についての研究はまだまだだというのが現状です。幼稚園や保育所などの現場



考える力を育てる玩具やゲームを共同で開発。写真は、金沢の工房で製作してもらっているビー玉転がしのための木製玩具。レールの長さ、傾斜のつけ方、転がすための素材など、自由にアイデアを試せる。

うになるのかについては、今後、海外のケースも研究し比較することで明らかにしていきたいと考えています。

「遊び」については、子どもがどのように遊びを発展させ、それを通じてどう発達していくかを研究しています。大切なのは遊ぶ環境を子どもの姿に合わせ整えることです。準備する遊びの道具やルールを工夫するだけで子どもはもっと考えたり、想像したりすることができるようになるので、能力を大きく伸ばしてあげられます。

に足を運んで子どもたちを観察し、直接、インタビューをすることで研究を進めています。研究を通じて、日本の子ども何人かは、たとえ嫌なことであっても「手伝う」といって「一緒にやれば楽しい」といった考えを持っていることが分かってきました。子どもが何から影響を受けて、こうした考えを持つよ

うになるのかについては、今後、海外のケースも研究し比較することで明らかにしていきたいと考えています。

将来的には、卒業生が現場で実践者として経験を積み、またここに学びに帰ってきてくれればと思っています。やはり、実践者は研究者が知らないことを多く知っているの、共同研究をすることで新しい発見が生まれると考えています。

この面白さを学生に伝えたいと考えています。自分の工夫次第で子どもは大きく成長するので、専門性の高い職業だと感じてほしい。また、実践力を身に付けてほしいので、現場の様子を撮影した動画を使うことが多く、子どものありのままの姿を紹介するようにしています。

PROFILE

大阪府出身。上智大学卒、ヒューズトン大学大学院、ノーザンアイオワ大学大学院へフルブライト奨学生として留学し、博士課程修了、博士(教育学)。聖和大学准教授、関西学院大学准教授を経て、2013年から現職。本年度、香港教育大学客員研究員。専門は乳幼児発達心理学、幼児教育。子どもの心理学、幼児理解の理論と方法、保育心理学演習などを担当。著書に「子どもの遊びと発達」(分担執筆)など。



総合政策学部

専門は視覚芸術で、戦前のニューカレドニア日本人移民史を写真や映像を使って視覚化し展覧会などで発表しています。

「アートは言葉の壁を越えてメッセージを伝えられる」と考えたことがきっかけで、この手法で表現することを始めました。実は、ニューカレドニアには戦前、ニッケル鉱山で働くために日本から約5700人の単身男性が出稼ぎに行き、現地の女性との間に子どもを持ちました。しかし、



ほとんどの日本人が太平洋戦争をきっかけに敵性外国人としてオーストラリアの強制収容所に送られました。残された日系2世は、幼いうちに父親と別れたため、生活からは日本語が消え、自身のルーツを知ることともなりました。こうした歴史を、言葉の壁を越えていろんな国で伝えるためには、視覚芸術が最適な手法だと考えたのです。

2003年から3年間は、春休みと夏休みに現地へ行き、2世から話を聞き、資料集めやポートレートの撮影をしていました。集めた資料を整理して、日本人移民の体験をまとめた展覧会を2006年に初

めて、ニューカレドニアと日本で開催しました。視覚芸術は見る人の身体的な関わり方によって、伝わる内容やインパクトが変わります。展覧会では、作品を見れば移民史が分かるようにしようと、見せ方の細部にまでこだわりました。今、私の手元にはニューカレドニア



フランス留学中に初めて生きたハリネズミを見てから、いろいろグズスを収集している。最近では日本でも繁殖、「特定外来生物として駆除されていると聞くのは悲しい」と言う。写真は、ベルリンの蚤の市で購入したシュタイプ社製アンティーク。

にいる2世との関わりの中で収集した大量の写真や映像記録があります。これらの資料を次世代に残していくことが、これからの私の役割です。その写真がいつ撮られたもので、誰が写っているかを記録して、データベース化したいと思っています。



Mutsumi Tsuda 津田睦美 教授

PROFILE

奈良県出身。京都市立芸術大学美術学部卒、Ecole d'Arts d'Aix-en-Provence 第二課程(アート)修了(フランス)。成安造形大学を経て、2017年4月から現職。専門は視覚美術。アーカイブデザイン、文化政策などを担当。著書に「マブイの往来」など。

理工学部

私



たち生物は、卵のような様などから複雑な構造の臓器を作り、虫や魚などは体に美しい色や模様を作り出します。私は、こうした現象がどのような仕組みの下で起きているのかを、3次元レベルで数理モデルを使って解明したいと思っています。この分野における2次元レベルの研究はかなり進んでいるのですが、3次元レベルの研究はほとんど手が付けられていません。近年のコンピューターや計測機器の急速な発達によ



きれいな色や模様をした虫を見るのが好きで、標本を購入するこや模様がどのようにできているのか不思議に思いながら眺めている。

り、これから発展が期待されている分野です。

特に力を入れているのは肝臓についての研究です。肝臓は1、立方程度六角柱の基本構造が積み重なってできているのですが、その中身の構造、具体的には肝細胞や血管、老廃物を排出する管などがどのように作られているのかを数

学的に解明し、その仕組みを定式化したいと考えています。

しかし、生物が持つこのような生成メカニズムの多くは、既存の数学の理論だけでは説明するのが困難で、なぜ生物が簡単にこれほど複雑な構造を作り出せるのかは分かりません。しかし、それを数学的に解明し、定式化することができれば、病気の治療法の発見や工業化など、さまざまな場面で活用できると考えています。

授業では、私ばかりが話しても面白くないので、数式を解くことで自然の中の現象を理解し、あるいはイメージしてもらえようように

昌子浩登

准教授



意識しています。数式を解いてもらうことで、自然界の現象を数学的に体感してもらい、面白いと感じてくれればと思っています。

学生には、自分が知らないことについての話を聞いたときに「面白そうだ」「何かできそうだ」と感じることでできる心を育ててほしいと思います。関西学院大学には、最先端の技術がそろっているので、自分が「面白そう」と感じたことを深く研究できる環境があります。さまざまな人や分野の話を知りたい、たくさん刺激を受けてください。そして、自分の興味を突き詰めてください。

PROFILE

大阪府出身。九州大学理学部数学科卒、同大学院理学研究科修士・博士課程修了、博士(理学)。京都大学基礎物理学研究所非常勤研究員、日本術振興会特別研究員、京都府立医科大学医学研究科物質生命科学講座講師などを経て、2017年から現職。専門は数理生物学。応用数理入門、最適化数学特論などを担当。

高等教育推進センター

専

門は教育工学です。主に、テクノロジーなどを使うことによって、学習環境をどのように改善できるのかを研究しています。

特に最近では、持ち運び可能な小さなロボットを使った特別支援教育に関心があります。例えば、肢体不自由の子にとって、学校に行くことやワールドワークに出ることは難しい部分がありますが、カメラやマイクを搭載したロボットを教育の現場に送り込むこ



とで、あたかも自分がその場にいるように学習することが可能になります。その場の景色や音がロボットを通じて学習者に伝わり、さらに学習者から動作やメッセージを送ることも可能になるため、これまで接点のなかった人とコミュニケーションを取ることも可能になります。テクノロジーを用いた学習が学習者にとって、どのような効果を生むのかについて研究を進めています。

他の例では、360度撮影できるカメラを教室に配置することで、授業中の学生の表情や発言、しぐさなどのデータを細かく集められるようにし、それらを分析することで、どのような授業が学生の意欲や関心、能



趣味は飼い犬の「おいなり」(♀)と散歩すること。

力を伸ばすことができるのかについて研究しています。こうした取り組みを通じて得たものが、各教育現場の先生にとって授業方法のヒントになり、授業がより良いものになっていけばと思っています。

授業において意識しているのは、「研究する力」を学生に身に付けてもらうことです。担当しているのは共通科目

Junpei Tokito

時任隼平

専任講師



です。いろいろな学部学年の学生が授業を受講しています。せっかく大学で学ぶなら文系や理系に関係なく、論文の探し方や読み方、定量的定性的な調査方法など、研究をするために必要な基礎的な力を身に付けてほしいと思っています。

関西学院大学には自分を鍛えるための全てがそろっています。授業とは別に、多様な部署から魅力あるプログラムが多数提供されています。また、図書館やラーニングモンズ、トレーニングセンターも充実しています。学生の皆さんには、大学で学ぶという機会を最大限活用して自分を鍛えてほしいと思います。

PROFILE

大阪府出身。関西大学総合情報学部卒、同大学院総合情報学研究科博士課程修了、博士(情報学)。2015年から現職。専門は教育工学。スタディスキルセミナー、PBL特別演習などを担当。著書に「大学におけるアクティブ・ラーニングの現在」(分担執筆)など。

関西学院大学に届く求人票

例年、「関学生を採用したい」という企業からの求人票が大学へ年間を通じて約1万件届いています。教学Webサービス内「キャリア」タブの「KGキャリアナビ」内「求人を探す」から検索できます。昨年に続き、企業の採用意欲は高く、現在も例年以上に優良企業からの求人が多数到着しています。企業の採用活動は卒業前の3月まで続きます。実際にこの時期に諦めず頑張った多くの先輩たちが卒業までに内定を得ています。夏以降も諦めずに就職活動を進めていきましょう。

個人面談

事前予約制で1日1回40分間、経験豊富なキャリアアドバイザーが1対1で相談に応じます。就職活動状況の見直しや面接トレーニング、エントリーシートの相談など、さまざまな内容に個別に柔軟に対応します。例えば、春学期に留学から帰国し、これから就職活動を始める人は、まずはキャリアセンターに来て、留学期間中に実施したキャリアガイダンス等の資料を受け取り、個人面談で今後の就職活動の進め方について相談しましょう。また、公務員や教員志望から民間企業志望に切り替える人についても、ぜひ改めて個人面談を活用しましょう。個人面談は教学Webサービス内「キャリア」タブの「KGキャリアナビ」で面談当日7日前の午前10時から予約可能です。ぜひ予約してください。



先輩活動体験記

教学Webサービス内「キャリア」タブの「KGキャリアナビ」では、先輩の就職活動の体験記を公開しています。「企業を探す」から企業名を検索し、「先輩活動体験記」より確認してください。

学内企業説明会

大阪梅田キャンパスで開催中です。まだまだエントリーを受け付けている企業はたくさんあります。新たな企業と出会う機会にしてください。説明会后、その場で選考を実施する企業もあります。履歴書・自己紹介書を持参して、スーツ着用で参加しましょう。参加企業の詳細は、教学Webサービス内「キャリア」タブの「お知らせ」、もしくは「イベント情報」で確認してください。



内定に関するトラブル

近年、内定辞退に関連したトラブルが多発しています。就職活動ハンドブック(85頁)も参考にしてください。企業からのプレッシャー等で悩んでいる場合は、ぜひキャリアセンターに相談してください。

就職活動がうまくいかないときは…

まずはキャリアセンターが配付している就職活動ハンドブック(88・89頁)を見ましょう。キャリアセンターが面談やガイダンスで伝えてきたこと、採用担当者との情報交換で得られたことなど、さまざまな情報を振り返ることができます。併せてキャリアセンターの個人面談を積極的に活用してください。

2016年度卒業生の就職率

関西学院大学の2016年度の就職率(学部生)は99.2%(全国平均97.6%)。また内定企業への満足度も96.0%と、高い数値となりました。

就職の窓

就職活動を継続中の4年生&M2年生に向けて
キャリアセンターでは
今後も多彩な就職活動サポートを
実施します！

現在も、4年生を対象とした求人が多数届いています。就職活動を継続中の皆さんは、これを機にどのような仕事をしたいのかを改めて問い直し、自分の特徴や強みを生かす企業や自分の夢を実現できる企業を探してみましょう。キャリアセンターを積極的に活用してください。

シューカツに勝つ 先輩の就職活動



三井物産株式会社
若林 諒さん
(2014年国際学部卒)

三井物産株式会社の金属セグメントにて、鉄鋼製品の貿易業務に携わっています。入社後2年間のバックオフィスでの勤務を経て、この春から現在の部署での業務に従事しています。

私は就職活動中、次の2点を大切にしていました。

- ▶ 自分自身と相手に対する理解を深める
- ▶ 自分の好奇心に対して制限をかけない

簡単に言うと、自己分析と企業分析をしっかりするという事です。恐らく就職活動時にほとんどの方が取り組んでいるでしょうが、私が働きたいと思う会社の内定を勝ち取ることができた一番大きな要因は、この2点において妥協しなかったことにあると考えています。

自己分析は、自分が生まれてから今に至るまで、経験してきたことを整理し、何に影響されて今の自分が形成されているのかを徹底的に振り返りました。企業分析は、その企業が何をして、今後どのような方向へ向かおうとしているのかを理解するように努めました。それをどれだけ自分が納得できるか。会社を選ぶ上でとても重要だと思います。

自分が少しでも興味を持った会社や業界があれば、説明会やインターンシップへの参加、先輩訪問などを通じて理解を深めることも重要です。私は行動に移すことで、新しい発見が多々あり、その経験を通じて、自分をより深く知ることにつながりました。

採用面接では、企業は限られた時間の中で就職活動生について知ろうとします。面接担当者は、企業の採用方針に沿いながらも、それぞれの個性で面接を行うため、情報の引き出し方は異なります。そのため、あらかじめその企業が何を求めている、自分がかんがえておくことに適しているのかをあらゆる切り口から分析し、確立させてください。志望する企業からの内定を勝ち取る上で最も重要なことだと思います。

最後に、あまり気負い過ぎず、就職活動を楽しむという気持ちで臨んでください。皆さんの成功を祈っています！

インターンシップに参加しよう

インターンシップとは、学生が企業や団体などでの実習や研修などの就業体験をするものです。社会を知り、自分の進路を考える絶好の機会です。KGキャリアナビ、就職情報サイト等から情報を探して、夏休みのうちにぜひ参加してください。応募についてキャリアセンターでの相談も可能です。

進路・インターンシップに関する 個人面談実施中(7月14日(金)まで)

個人面談では、8・9月に実施されるインターンシップ応募の際に提出する「履歴書・自己紹介書」、「エントリーシート」について相談できます。また、就職か進学かなど進路についての相談も受け付けています。積極的に活用しましょう。

筆記試験対策ツールを活用しよう

就職活動で課されること多い筆記試験。さまざまな対策ツールを用意していますので、ぜひ活用してください。筆記試験は何度も対策すれば点数は必ずアップします。今から準備に励みましょう。

SMART SPI

筆記試験を本番さながらの環境で受検することができます。教学Webサービス内「キャリア」タブの「KGキャリアナビ」より「筆記試験対策をする」からアクセスしてください。関学生は利用料が無料です。

筆記試験フォローアップセミナー

筆記試験は非言語分野(算数、数学)の対策が特に重要です。効率的に対策を進めたい人は、ぜひ受講しましょう。このセミナーは四つのステージ(基礎編、初級編、中級編、上級編)に分けて非言語分野の確実な得点アップを図ります。

- ▶ 開催キャンパス: 西宮上ヶ原キャンパス、神戸三田キャンパス
- ▶ 受講料: 500円(7回分)を各キャンパス大学生協で納付
- ▶ 予約方法: 受講料納付時に受領するID・パスワードで専用サイトから予約

※スケジュール詳細は、教学Webサービスの5月19日付のお知らせを参照してください。

先輩名簿を活用しよう

7月3日(月)から先輩名簿の閲覧を開始しています。先輩方から仕事内容ややりがい、職場の雰囲気など、リアルな情報を入手しましょう。閲覧希望者は各キャンパスのキャリアセンターで「学生証」を提示してください。先輩訪問の電話のかけ方やマナーについては、就職活動ハンドブック(キャリアガイダンスやキャリアセンターで配付)を確認してください。

第2回キャリアガイダンスに参加しよう

第2回キャリアガイダンスは、採用担当者に響くエントリーシートの書き方について、夏季休暇のうちに各自が自己分析した内容をどのように文章に落とし込んでいくかをお伝えします。また、業界、企業、職種を幅広く見るコツを分かりやすくお伝えします！

※文系・理工系、別内容で実施

西宮上ヶ原キャンパス(文系対象)

9月25日(月)	18:40~20:10	中央講堂
9月27日(水)	15:30~17:00、17:20~18:50	中央講堂

神戸三田キャンパス

9月26日(火)	18:35~20:05	文系対象	VI号館101教室
10月2日(月)	18:35~20:05	理工系対象	VI号館101教室

3年生&M1年生は 有意義な夏を過ごそう

3年生とM1年生は、まだ時間に余裕のある夏の過ごし方が今後の就職活動に大きく影響します。キャリアセンターで実施している3年生、M1年生向けのプログラムやサポートを活用し、計画的に準備を進めていきましょう。詳細は「KGキャリアナビ」を確認してください。

自分の言葉で宝塚をPR みんなに愛されるサファイアに



中西 瞳さん 文学部2年生

手 塚治虫の作品「リボンの騎士」の主人公にちなんで第8期宝塚市観光大使リボンの騎士サファイアに選ばれた。

授業で宝塚について学んだことがきっかけだった。ゲストスピーカーの市長などの話を聞いて「宝塚は好きな街で、遊びに行くことも多かつたが、市については知らないことばかりだと感じた」と興味を持ち始めた。宝塚歌劇が好きで1年生の頃からミュージカルサークルに所属していたが、人数不足により廃部になったことも重なって「新しいことを始める良い機会。チャンスがあるなら挑戦したい」と思い切つて応募することにした。

今回、応募したのは20人。書類

審査と1次面接を通過した5人が5月の公開選考に進んだ。お題に沿った即興フリートークや、特産物の試食レポートを通じて、宝塚の魅力を発信できるかどうかを審査され、見事、サファイアに選ばれた。「緊張でうまく話すことができず、ほとんど諦めていた。名前が呼ばれた時は本当に驚きました」と振り返る。

任期は1年間で、今後はイベントなどに参加して市の魅力を発信していく。「宝塚についてまだまだ知らないことが多い。活動を通して私も学んで、自分の言葉で全国の人に魅力を発信できるようにになりたい。みんなから愛されるサファイアになれればうれしい」と笑顔を見せる。

勉強に、スポーツに、趣味に一。
さまざまな分野で一生懸命に頑張るKGビープル。
きらきらと輝く横顔を紹介する。

世界開発者会議に招待され IT関連の技術者やデザイナーと交流

林 大翔さん 文学部1年生



6

月5日から9日にかけて開かれた、世界中の開発者や技術者を対象にしたApple主催のイベント「Worldwide Developers Conference（世界開発者会議… WDDC）」にスラッシュ（奨学金制度）枠として招待された。各国の有名IT企業の技術者ら5千人が集まる大規模なイベントで、新製品の発表や情報交換などが行われる。

作のゲームアプリは3カ月で完成させた。現地では、技術者やデザイナーと話す機会があり、自身が作ったアプリの改善点を聞き、使用者の視点に立ったアップデートをもらうなど充実した時間を過ごした。また、同窓会（フランス）支部長の阿部真さんと出会い、話ができたことも大きな刺激になったと言ふ。

関西学院高等部出身で、プログラミングを始めたのは約半年前。数理科学部の宮寺良平教諭に勧められ、同部が開いたプログラミング講座に参加したのがきっかけだった。「知識は全くなかったが、勉強していくうちにはまっていた。そこからほとんど力を付け、応募に必要な自

文学部では心理学を学び、部活はアメリカンフットボール部に所属している。プログラミングの勉強は空き時間や休みの日を利用して続けている。「一番頑張りたいのは部活。大きな試合で活躍できる選手になりたい。もちろん勉強も続けて、将来は大学院に進み、チャンスがあれば起業したい」と目を輝かせる。

KOBE PRアンバサダーとして 神戸の魅力を世界へ発信



ホセダビボーデン スベルビさん

経営戦略研究科専門職学位課程2年生(ドミニカ共和国)

エルギューベン カリンさん

経営戦略研究科専門職学位課程1年生(ドイツ)

外 NSを通じて世界に発信する

「K O B E P Rアンバサダー」を務める。

神戸市が昨年からの始めた取り組みで、今年
は15の国地域から市内在住・在学・在勤者
を中心に25人が選ばれた。ボランティアで
任期は1年間。市が企画するイベントやツ
アー、意見交換会への参加、暮らしの中で見

つけた神戸の生活文化や魅力の発信、市民
への取材など、活動内容は多岐にわたる。

2年連続でアンバサダーを務めるホセさ
んは「3年間住んでいる神戸は、私にとっ
てホームそのもの。街の魅力を多くの人に
知ってもらいたい」。カリンさんは「マーケティ
ングを学んでいるので、自分の知識や経験

を使って大好きな神戸を発信したい」と意
気込む。

二人のSNSには、生活文化や歴史な
どの魅力が分かる多くの写真が複数の言
語で投稿されている。「私たちの視点で良
いと感じたものを積極的に発信している。
母国の友達も興味を持ってくれている」と
言。

「神戸は本当に美しい街。大阪や京都は
かりが目立っていて、神戸のことを知らない
外国人が多いのはもったいない。活動を通じ
て、外国人から注目される街になればうれ
しい」と話す二人。7月15日からの神戸開
港150年記念イベントにも参加する予
定。今後も「K O B E」を発信し続ける。

ひと人ひと

学生時代に培われたチャレンジ精神 入社7カ月で取締役



井川 沙紀さん

2003年総合政策学部卒
ブルーボルトコーヒージャパン
合同会社取締役

サ ンフランシスコ発祥で、日本と
米国で31店舗を運営している
ブルーボルトコーヒーの日本人で取
締役を務めている。

置、新規出店を含めた会社拡大に対
する意思決定など、経営全般を担っ
ている。

入社したのは2014年。それま
では複数の会社で広報や人事の仕
事をしてきた。「この会社でもその分
野の仕事をすると思ってた」という
予想とは違い、入社後すぐに創業者
のジェームスフリーマン氏から日本
法人の取締役になるよう勧められた。
「荷が重いと感じて断った」と当時を
振り返る。しかし、「嫌になったらやめ
ればいい。あなたのキャリアをサポー
トするから」という言葉に背中を押
され、入社7カ月で代表に就任した。
現在は売上・予算の管理から人員配

「私の『まずやってみよう』の姿勢
は総合政策学部時代に培われたのか
もしれません。授業では難しい課題に
グループで取り組むことが多く、うま
くないこともあった。失敗を恐れ
ず挑戦した経験が私の財産になっ
ています」と学生時代を振り返る。
学生へのメッセージとして「大学
時代は人に迷惑をかけない限り失
敗が許される時期。一つひとつの体
験が自分の人生に深みをつけるもの
になると思います。失敗を恐れずに
物事に取り組んでください」とエー
ルを送る。



総合政策学部
清水陽子ゼミ

空き家があることを前提に より良いまちづくりに取り組む

人 口減少社会における市街地の在り方について研究しています。特に土地利用の分野に関心を持っていて、土地の使われ方や人々の暮らし、「コミュニティ」などを研究の対象としています。

現在、その中で主に取り組んでいるのは空き家対策です。空き家をそのままにしておく、虫が湧いたり、動物がすみ着いたり、またゴミの投棄などまわりの環境と治安に悪影響を与えます。特に対策が難しいのが、小さな空き家です。工場の跡地などの大きなものは、比較的活用がしやすく、土地を小分けにすることもできるので、対策はいくつかあります。しかし、小さな空き家は、利用したい人は少ないものの、所有者にとっては財産でもあるため、すぐに取り壊すこともできず扱いが難しいのが現状です。

ここまでの話だけを聞くと、空き家があることが悪いことのように思えるかもしれませんが、私はそのように考えていません。人口減少が進む現代では、空き家が出ることは当たり前で、「空き家をなくそう」という考え方は現実的ではありません。むしろ、考えていくべきなのは「空き家があることを

前提としたまちづくり」です。まちが人が減り、空き家ができるということは、そのまちに空間的な余裕が生まれると捉えることもできます。このような「まちの多孔隙化」を計画的に進めていくことが、これからのまちづくりにつながると考えています。空き家の増加は好ましいことではありませんが、それを悲観的に受け止めるのではなく、どうすればより良いまちになるのか積極的に取り組んでいきたいと思っています。

学生には、社会で必要な力を身につけながら、自分の経験や身近なものを対象とした研究をしてほしいと思っています。ゼミの3年生はグループワークが中心ですので、周りの人と協力しながら研究を進めてもらいます。社会に出て、周りの人と協力する面白さと大変さを知ってもらいたいと思っています。



清水 陽子 准教授

公園活用の面からまちの問題の解決を



木村 大雅さん
総合政策学部3年生

まちにおける公園の役割に興味があり、他の学生とペアで研究を進めています。私が住む夙川には桜で有名な公園がありますが、ここ数年で、花見の季節に屋台を出すことが禁止され、花見に来る若者も少なくなりました。こうした現状を知り、公園をうまく利用することが、まちの活性化や問題解決につながるのではないかと考え、研究したいと思いました。

現代のまちづくりは、生活に必要な諸機能を中心部に集めたコンパクトシティが主流です。効率的に生活や行政ができるなどのメリットがある一方で、人口密度が高くなることから人間関係などによるトラブルが起きやすいなどのデメリットもあります。これらの問題を、公園を利用することで解決できないか研究を進めています。

清水ゼミの学生はモチベーションが高く、良い刺激をたくさんもらえます。これからもみんなと協力しながら、自分の興味を追求していきたいです。



理工学部生命科学科
北條賢研究室

アリの個体間相互作用を研究し 協力的な社会の仕組みを理解

私

の専門分野は化学生態学、進化生態学、神経行動学です。動物の個体間の相互作用の研究をしています。具体的には動物同士のコミュニケーションがどのようにして成立しているかを調べています。

研究材料はアリです。アリは真社会性という特殊な社会を築いています。真社会性とは、社会の中に不妊で労働に特化した個体(働きアリ)が存在する現象を指します。

アリはメス社会で、女王アリをはじめ、働きアリも全てメスです。オスは交尾の時に一時的に

生産されるだけで、交尾後に死んでしまいます。メスはフェロモンと呼ばれる化学物質を放し、この匂いを感じたアリたちが「食べ物がある」「危険であるか」などを

判断し、集団として統率のとれた行動を示します。このようにアリは人間のように言語ではなく、嗅覚や味覚を主に用いて仲間情報や味覚を主に用いて仲間情報を伝達します。このようなアリあると同時に、研究設備・施設が充実しているので、教育・研究を進めるには最適な環境で、非常に闊達で多様な考え方をを持った学生が多く集まっていると感じます。学生には主体性を持って研究・勉強を進めてほしいと考えています。社会に出たとき、学生時代の自主的な研究力はきっと自信につながるでしょう。



北條 賢 准教授

アリの分業システムを支えるフェロモンを研究



小倉 吉暁さん
理工学部4年生



松田 典子さん
理工学部4年生

アリの社会は強固な分業システムで支えられています。例えば繁殖分業では、女王アリが自らは働きアリは自らの繁殖を抑制して労働に徹します。また、巢外で採餌を担当する働きアリは餌の情報を仲間へ伝えて食料を効率的に確保しています。そのような分業に関わるフェロモンについて行動実験や分析化学の手法を用いて研究しています。

3年生に行われた研究室紹介で北條先生の研究内容に興味を持ち、ここを選びました。学生3人と北條先生、助教の地下先生の合計5人、少人数なので先生との距離が近いカジュアルな研究室です。先生は自分の力で考えるよう導いてくれます。4月から研究を始めたばかりなので分からないこともたくさんありますが、先生に教えを乞いつまひ進んでいます。



このコーナーでは、KGB総部放送局が記事と映像で、部活動に励む関学生のイキイキとした姿をお届けします!

突撃!
KG CLUB
by KGB

(体育会 準硬式野球部)

70年もの歴史と、昨年の全日本選手権でベスト4という実績とを兼ね備えた準硬式野球部。プロ野球選手を生み出すなど今、最も注目を集める部活と言っても過言ではありません。個々の技術力向上だけでなく、フォア・ザ・チームの精神を大切にされた練習で「全国制覇」を目指しています。

練習日
火曜～日曜

部員数
80人

活動場所
第2グラウンド



取材レポート

準硬式野球部に突撃! 彼らの練習の密着取材やインタビューを通して準硬式野球部の魅力に迫りました! 映像も、ぜひご覧ください!

動画をCHECK!

↓映像はこちらから



い意味で 学生が自主的に活動でき
雰囲気があって 良いと思います



インタビュー

主将 川端 一寿 捕手

(文学部3年生)

Q.準硬式野球部の伝統は？

代々、守備や守備の連係が一番大事に
していて、1点を取ることも大事ですけど、
1点を防ぐ野球というのが準硬式野球
部の伝統になっています。

Q.憧れている選手は？

米大リーグ、セントルイス・カーディナルス
のヤディアー・モリーナ捕手です。捕手
は緑の下の力持ちのようなポジションな
のですが、モリーナ捕手は圧倒的な存
在感を放っていると思います。

インタビュー

主務 藤綱 康太郎さん

(経済学部3年生)

Q.準硬式野球部の雰囲気は？

学生主体で主将、副主将、幹部を中心
に活動していて、良い意味で学生が自
主的に活動できる雰囲気があります。

Q.上下関係は厳しい？

そこまで厳しくないと思います。あいさつ
など人間として大切なところは指導しま
すが、プライベートで関わることもありま
すし、上下関係は良いと思います。



坂本投手 について

昨年のドラフト会議で
読売ジャイアンツから
育成4位で指名を受け
た坂本工宜投手。猛練
習の末、投手転向後わ
ずか2年でプロの舞台
へ駆け上がったという
ポテンシャルの持ち主
です。今後の活躍に期
待大です！



KGB総部放送局

関西学院大学で唯一の放送団体。アナウンス、ドラマ、技
術、制作、報道の5パートに分かれ、昼休みの放送、番組
制作、イベント音響などさまざまな活動を行っています！興
味のある人はTwitter、ホームページなどをご覧ください！

HP→<http://www.everyday-kgb.com>
Facebook→<https://m.facebook.com/KGBbroadcast>
Twitter→<https://twitter.com/KGBbroadcast>

初の海外留学で たくさんの 経験と学び 英語の上達も

2月から約1か月間、アイルランドにあるダブリンシティ大学での英語研究プログラムに参加しました。

今回が初めての海外経験だったので、出発前は、自分の英語が通じるのか、持ち物は何かが必要かなど、いろいろなことが不安でした。パスポートの取得や入国審査など、渡航前から初めてのことばかりで、それすらも良い経験になりました。現地ではホストファミリーにお世話になることが決まっていたので「ホストファミリーとの会話の仕方」という本を持っていたのですが、これはあまり使うことはなかったです(笑)。

ホームステイ先から学校まではバスで15分ほどですが、日本のようにバスが定刻に来ることはないで、毎日45分、歩いて通学していました。当たり前ですが、授業は全て英語で、最初は分からないことが多かったです。しかし、クラスメートやホストファミリーとの会話、授業でのプレゼンテーションを通して、徐々に自分の英語が上達しているのが分かり、うれしかったです。3月のセントパトリックス・デーを体験できたのも良い思い出です。町中が緑に染まり、アイルランドの人がシティーセンターに集まっています。盛り上がりでした。



↑セントパトリックス・デーは緑の服を着て参加

今回の留学では初めての経験をたくさんし、多くのことを学ぶことができました。周りの人に頼る大切さも感じました。初めての海外で、自分一人で考えてどうにもならないこともありました。自分で考えることはもちろん大切ですが、勇気を出して誰かに頼ることで解決することがありました。今回の留学をきっかけに、今後いろいろな国に行きたいと思っています。



↑語学学校でのイベントの一つJapanese Day



ヨーロッパ大陸

春季英語研修プログラム
岡村 咲希さん(入間福祉学部3年生)
派遣国 ▼ アイルランド

My favorite KG



ごとき
呉迪さん
(国際学部3年生)
中国



スポーツ関連での 起業を目指し ビジネスを学ぶ

↓バスケットボールサークルのみんなど



— 日本に留学した理由は。

母に勧められたことがきっかけでした。父も母も大学時代、日本に留学に来ていて、卒業後も数年間、日本で働いていました。僕はその時に生まれたので、実は日本生まれなんです。2歳で中国に帰りましたが、その後も日本に来ることはありました。中学が終わる頃に母から「日本での留学に興味はないか」と言われ、高校1年生から高知県の高校で本格的に留学生活を始めました。

— 今は何を勉強していますか。

ビジネスについて勉強をしています。しっかりと勉強して、将来は、カナダかアメリカで自分の会社をつくりたいと思っています。スポーツに関するビジネスで、具体的には、スポーツに関わる仕事がしたい競技経験者と、スポーツを学びたい、習いたいと思っている人をつなげるようなインターネットビジネスを考えています。僕もスポーツが大好きなので、好きなことを仕事にできればと思っています。

— 大学生活について教えてください。

楽しいですね!特に関学はグローバルな考えや感覚を持った学生が多いので、話していても面白いです。日本人と外国人は考えや価値観が違ふとよく言われますが、関学の学生は、そうした違いを受け入れてくれます。僕が入っているバスケットボールサークルは日本人の学生ばかりですが、みんなとても仲が良く楽しいです。大学のプログラムも充実していますね。実は、最近までプログラムを利用して、カナダへ留学していました。スポーツが好きなので、留学先では周りの学生や近所の人を誘ってアメリカ

ンフットボールのチームをつくって試合などをしていました。大学では本当にたくさんの経験をさせてもらっています。

— お国自慢をどうぞ。

歴史と文化、あとは景色が魅力的です。中国の長い歴史は学べば学ぶほど興味深く感じますし、日本と近い国でありながら、全く違った文化を持っているところ面白いです。中国は広い国ですので、一つの国の中でさまざまな景色が楽しめます。皆さんもぜひ、中国を訪れて、歴史や文化、そして壮大な景色を楽しんでください。

— 最後に好きな日本語を教えてください。

やっぱり「友」ですね。高校生の時に親から離れて日本にやって来て、不安でつらいこともたくさんありました。でも、いつも周りには友達がいって、助けてくれました。友達は僕にとって、今も昔も変わらずとても大切なものです。それに、一緒にいると楽しいですね。これからも友達を大切にする気持ちを忘れないようにします。

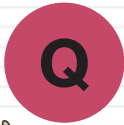


数字でみる 関学

名誉や地位、健康や人間関係など、生きていく上で大切にしたいものは人それぞれ違います。今回は、今の関学生が暮らし方において、何を重視するのかを紹介します。

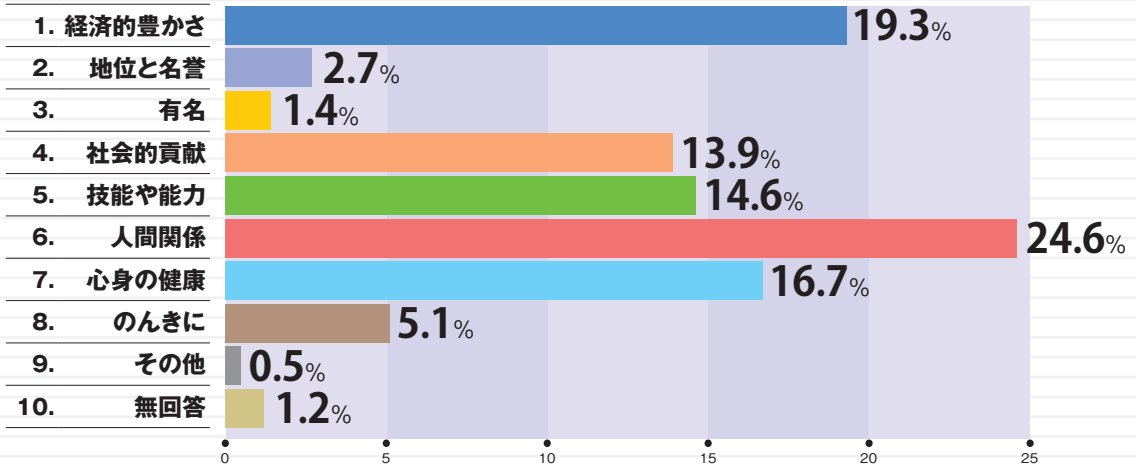
関学生が重視する暮らし方

※高等教育推進センターでは、第19回カレッジコミュニティ調査を2016年6月～7月に実施し、報告書を17年3月に発行しました。報告書の「重視する暮らし方」を参考に紹介します。



あなたが重視する暮らし方を下記から重視する順に3つ選んでください

1. 経済的に豊かな暮らしをめざす
2. 地位と名誉を手に入れたい
3. 有名になりたい
4. 社会の役に立つような事をする
5. 自分の技能や能力を伸ばしていく
6. 家族や友人といった人間関係を大切にしてい
7. 心と体の健康を大切にする
8. あくせくせずに、のんきにクヨクヨしないで暮らす
9. その他



「家族や友人といった人間関係を大切にしてい」が24.6%で1位となり、今の関学生は「人間関係」を大切にしたいと考えていることが分かりました。次点としては、「経済的豊かさ」が重要視されているようです。その後には、「心身の健康」「技能や能力を伸ばす」「社会的貢献」などが僅差で続き、「地位と名誉」「有名」はかなり低い割合となりました。

社会で生き抜く力を キャリアゼミAで卒業生と交流



社会で生き抜く力を身に付けることを目的としたライフデザイン科目「キャリアゼミA」が5月20日、G号館で開講されました。全9回のプログラムの3回目。社会の第一線で活躍する卒業生4人を招いて、学生とのセッションがあり、千里国際高等部からも生徒2人が参加し、関学ファミリー3代が交流する機会となりました。

パネルディスカッションでは、卒業生がパネリストとして登壇。集まった約50人の学生に「学生時代に打ち込んだこと」「今の会社に入社したプロセス」「現在の業務の内容」などについて説明しました。その後の座談会は終始和やかな雰囲気、どの学生も積

極的に質問をしていました。卒業生は共通して「謙虚であること、素直であることが大切」と語り掛け、学生たちの印象に残ったようでした。

プログラムを担当する森隆史先生は「このプログラムは『気付き』を提供する場だと思っています。過去にも多くの学生がこのプログラムを経て、『課題』を明確にし『行動』に移してきました。自分に何が必要かを考え、『まずはやってみよう』という気持ちで行動してほしい」と学生へ期待を込めました。最後に開かれた座談会では、卒業生との交流はもちろん、学生同士でも活発な議論があり、充実した時間を過ごしました。

陸上競技部が過去最高得点 関西インカレ7年連続15回目V

「第94回関西学生陸上競技対校選手権大会」が4月20日と5月10～13日、大阪市のヤンマースタジアム長居・ヤンマーフィールド長居であり、関西学院大学は総合得点で過去最高の235点を記録。2位の立命館大学に107点の大差をつけ、7年連続15回目の総合優勝を達成しました。

関西学院大学は、全競技23種目中9種目で優勝、20種目で入賞し、3種目で新記録を樹立しました。自己ベストを更新

した選手も多く、選手たちは練習の成果を見せつけました。



JPO派遣制度説明会を開催 国際機関を目指す学生らが参加

関西学院大学国際機関人事センターと外務省国際機関人事センターは4月16日、大阪梅田キャンパスで「2017年度JPO派遣制度説明会」を開催しました。

外務省は国連など国際機関の職員を増やすために一定期間、日本政府が費用を負担して国際機関に期限付き職員を派遣するJPO派遣制度を実施。この制度を利用して経験を積み、正規職員への道が開かれることもあり、国連職員になるための有力な制度です。

説明会では、同制度の概要や国際機関の採用制度などが紹介され、質疑応答では、JPO派遣候補者採用試験に向けた具体的な書類の書き方、必要な資格、派遣される可能性があるポジションなどの質問



がありました。会場には、JPO派遣制度を利用して国際機関への就職を考えている大学生、大学院生、社会人など53人が集まり、熱心に聞き入りました。

関西学院大学は本年度4月から大学院副専攻「国連・外交コース」を開設し、国連や国際機関、外交の分野で活躍することを目指す人材の育成をスタートしています。今後も外務省や国連機関と協力し、国連などの国際機関で働くためのキャリア支援や情報提供などを積極的に行います。

くまモンが社会学部の授業に! 広告文化論「熊本県のブランド戦略」

社会学部の開講科目「広告文化論」(西宮上ヶ原キャンパス)で5月17日、熊本県営営業部長兼しあわせ部長のくまモンが「サプライズ」登場しました。約400人の学生は、うれしそうにくまモンと交流しました。

この日のテーマは「くまモンと熊本県のブランド戦略」。熊本県職員がゲストスピーカーとして登壇し、熊本県のブランド戦略や広告コミュニケーションの成功事例などを説明しました。授業を通じて学生は、社会問題となって久しい地域の課題の解決や、活



性化について考えました。

学生たちは「くまモンのファンだったが、県のブランド戦略という視点では考えたことがなかったので、良い機会になった」「くまモンの成功事例を知り、コミュニケーションに興味が増えた。もっと勉強したい」「なじみのなかった熊本県について理解が深まったし、好きになった」などと話しました。



法学部と経済学部の連携科目で 今村岳司・西宮市長が市政を語る



法学部と経済学部が連携して開講している入門科目「地域政策入門A」で5月12日、今村岳司・西宮市長が登場しました。

この授業では、地域政策をめぐる大きな時代の変化、自治体の具体的な取り組み、住民やNPOなど地域政策の担い手を取り巻く法的・行政的な制度や仕組みの理解を目指し、近隣の首長をゲストスピーカーとして招き、政策や課題について考えます。今村市長は、市長になるまでの経験、西宮市の歴史、関西の住みたい街でのランクイン、西宮市が取り組む政策・施策などについて話しました。

終盤、学生に対して「西宮

市は約100年の歴史があり、長年、多くの方が西宮市のために貢献してきました。市長の私は今、これまでの方々为实现できなかった課題に取り組み、また未来につなげるよう働いています。次代を担う皆さんの役割は、これまでの世代が解決できなかった課題に挑戦し、解決、実現することです。そのため大学では、どんどん学び、挑戦したいと思います。大学で得たことを力に、卒業後はプロ(社会人)として、自分で考えて社会の課題を解決できる存在になってください」などと訴えました。教室は満席となり、学生は熱心に話を聞き、積極的に質問しました。

橋本秀樹・理工学部教授が 国際カロテノイド学会のフェローに

橋本秀樹・理工学部教授が国際カロテノイド学会のフェローに選出されました。同学会は医学や薬学、生物、化学、物理、農学など幅広い分野を研究している国際学会です。橋本教授は日頃の研究成果が認められたことにより選ばれました。

橋本教授は「カロテノイドは光合成や人工光合成に関する基礎研究から食品、医療、

化粧品に関する応用研究に及ぶ世界中の広範な研究者が研究対象とする天然色素です。美白効果や抗酸化・抗肥満・制がん作用があり注目を集めています。歴史と伝統のある国際カロテノイド学会のフェローに選ばれ、大変名誉なことであると喜んでいました」と語りました。授賞式は7月12日、スイスのルツェルンで執り行われます。

誰もが学び働きやすい関西学院に レインボーウィークを開催

関西学院大学では5月15日から26日まで、性的少数者をはじめ多様性を認める環境をつくることを目的にした「レインボーウィーク」が開催されました。5回目となった今回のテーマは「私が私のままでいられる関学へ！」。

西宮上ヶ原キャンパスの中央芝生で開かれたオープニングイベントでは、アカベラサークル「クレセントパーティー」など学生有志によるライブや、事前に募集したセクシュアリティ



に関する意見の代読があり、レインボーウィーク期間中には、パネル展示、LGBT関連図書コーナー展示、パネルディスカッション、トークセッション、講演会などが開かれました。

外務省「専門職員」業務説明会で 卒業生の長尾行泰氏が登壇

外務省「専門職員」業務説明会が6月1日、西宮上ヶ原キャンパスであり、外務省大臣官房人事課(当時)の長尾行泰氏(2006年法学部卒)が登壇しました。

外務省専門職員とは、高い語学力を習得し、条約や経済協力、軍縮や広報文化などの専門分野のスペシャリストとして本省や在外公館で活躍する国家公務員です。

長尾氏は自身の大学生活や外交官になろうと思ったきっかけ、入省から現在に至るまでの業務について話しました。

終盤、学生に対して「業務の



大小にかかわらず、「自分にしかできない』『この仕事を〇〇さんに任せたら間違いない』という仕事を見つけてください。どんな仕事をしても誰かが見えています。皆さんには『この人と仕事がしたい!』と思ってもらえるような人間になってほしい」と話しました。学生たちは熱心に耳を傾け、積極的に質問をしていました。

兵庫県朝来市にスタジオが完成 開設セレモニーを開催

関西学院大学の「朝来サテライトスタジオ開設セレモニー〜竹田まちづくりシンポジウム〜」が5月20日、朝来市の竹田コミュニティセンターで開催されました。関西学院大学と朝来市が主催、神戸新聞社が後援、竹田地域自治協議会が協力しています。

「関西学院大学朝来サテライトスタジオ」は、竹田地域の観光振興、空き家・空き施設の活用、定住促進等による地域活性化に貢献することを目的に設置されました。今後、このスタジオを拠点に、歴史調査や地域資源調査、まちづくり支援などの活動を展開する予定です。



国際開発学会プレイベントで 関学生の国際ボランティア団体が活動報告

「第18回国際開発学会春季大会プレイベント JASID-JASNIDS オープニングイベント」が5月27日、西宮上ヶ原キャンパスで開催され、関西学院大学から、国際協力、ボランティアを主たる活動内容とする学生団体の「Book for Children」と「関西学院上ヶ原ヒタット」が参加し、活動についてプレゼンテーションしました。

このプレイベントは、学生が報告会を通じて、それぞれの学生国際ボランティア団体がどのような活動をしているのかを知り、また国際協力や国際開発学の専門家、実務家とともに「学生として国際協力を行う意義」について考えることが目的です。



第一部では、各学生団体が教育支援、居住支援、食糧支援などそれぞれが行う活動について報告。第二部では、初めに参加学生同士で「学生として国際協力を行う意義」をテーマにディスカッションを実施しました。

参加した学生は、国際協力をする上での原体験の重要性や、国際協力に懸ける思い・意志をどのように持続させていくのかなどについて話し合い、密度の濃い時間を過ごしました。

熊本地震の被災地でボランティア 5回目は学生が支援内容を考案

関西学院大学の学生が6月2日から5日まで、熊本地震の被災地でボランティア活動を行いました。参加したのは有志学生19人。関西学院大学ヒューマン・サービス支援室が実施しているもので、2016年度に続き、5回目です。

期間中は昨年度と同様、被害が大きかった益城町の三つの仮設住宅で活動。学生らは、子どもたちの遊び場作りや茶話会、フラダンスイベント、手芸やコサージュ作りなどを開いて、被災者が集まって交流できる機会をつくりました。



また今回初めて、木山仮設団地に入居する住民らと一緒に、震災復興のシンボルとして全国各地に広がっているヒマワリ「はるかのみまわり」の苗約200株を植えました。

学生らは活動を通じて、被災者の方に寄り添うため、世間話をしたり不安や悩みを聞いたり積極的に交流も深めました。

関西学院へのご支援について 募金協力をお願い

ウォルター・R.ランパスが神戸・原田の森に蒔いた、一粒の種「関西学院」は、学生・生徒・児童数約2万9,000人の大きな樹木に成長いたしました。関西学院の発展は、皆様のご支援の賜物とあらためて御礼申し上げます。

関西学院を取り巻く環境は厳しい状況の中、関西学院らしい教育・研究を発展させるためにも、皆様のご理解あるご支援をお願いしているところでございます。

日頃の皆様からの温かいお力添えに心から感謝いたしますとともに、関西学院のさらなる発展のために、より一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2016年度募金状況

2016年度も下表のように多くの皆様からご寄付を頂戴いたしました。ここに深く感謝の意を表します。

関西学院理事長
宮原 明

関西学院理事長
宮原 明
関西学院院長
田淵 結
関西学院副理事長 関西学院大学学長
村田 治
聖和短期大学学長
千葉 武夫
関西学院高等部長
枝川 豊
関西学院中部部長
安田 栄三
関西学院初等部校長
田近 敏之
関西学院千里国際 中等部・高等部校長
井藤 眞由美
大阪インターナショナルスクール校長
William Kralovec
関西学院幼稚園園長
赤木 敏之

	件数	金額(円)
個人	3,818	158,473,928
法人	80	59,194,000
団体	103	145,855,462
合計	4,001	363,523,390

◎募金のお問い合わせ／関西学院法人部校友課 ☎0798-54-6010

関学カプセル...34

現存する建物は9棟。2号館のオハラホールなどは、今、会合などの場で利用されている。



1929年に西宮上ヶ原キャンパスに移転した後も、キャンパスの北辺や仁川寄りに10棟建てられた。当初は学院の所有ではなく、宣教師派遣母体の管理下にあったが、1960年代以降は徐々に学院の所有建物となり、現在は外国人住宅と称されている。原田の森時代同様にウオーリス建築で、キャンパスの建物と同じくスパニッシュミッション・スタイル仕様となっている。

外国人住宅

関西学院創立当時、原田の森キャンパスには宣教師が居住するための外国人住宅があり、第4代院長で初代学長のC・J・L・ベイツや初代法学部長のH・F・ウィズウォースなどの住宅が、W・M・ウオーリスの設計により建てられた。

アメリカコロニアルスタイルの各住宅は地下と屋根裏部分があり、1階にはパラーと呼ばれるたぶ接室や書斎、台所など、2階には寝室やサンルームが設置されていた。キャンパスが移転する直前には14棟あった。

ウオーリス建築の9棟が現存

学院通信

関西学院高等部は6月19日から5日間、高等部の食堂で、在日難民の出身国の料理を通じて難民について知り、売り上げの一部を寄付する「Meal for Refugees (M4R)」を開催しました。

学食メニューに「ビルマ風サラダうどん(220円)」「レーズンのパンプディング(100円)」「ビルマ風サラダうどんとレーズンのパンプディングのセット(320円)」の3種類を取り入れ、1食当たり20円が難民支援のために寄付される仕組み。中心となって活動している3年生30人は、SGHの取り組みの一つであるGS(グローバルスタディ)の授業で国際的な問題について2年間学習しており、最終年の今年、学びを行動につなげようと企画しました。

生徒たちは、メニューの提供だけでなく、広報活動にも積極的に取り組み、難民問題について取り上げたポスターやメニューを掲載したチラシを作成して学内に掲示。SNSを使った情報発信もしました。

中心メンバーの一人、三木まりなさんは「難民の方々の住む場所がないことなどを知り、少しでも力になりたいと思いました。また、多くの人が難民に対して間違ったイメージを持っていることも分かりました。この取り組みを通じて、少しでも多くの生徒が関心を持ち、難民を身近に感じてくれればうれしい」と話しました。



↑活動のまとめ役をした生徒たち。左から坂根悠介さん、松永晶太さん、三木まりなさん

高等部の生徒たちが食事を通じて難民支援

客野尚志・総合政策学部教授が建築分野の国際誌で Best Paper Award

客野尚志・総合政策学部教授が4月、日本建築学会、中国建築学会、大韓建築学会の3学会が共同で刊行する国際誌「Journal of Asian Architecture and Building Engineering」で、2016年のBest Paper Award (Environmental Engineering Field)を受賞しました。客野教授は「予想外の受賞で驚いています。周囲のサポートがあつてのことなので、関係者に感謝しています」と話しています。

受賞した論文は、「Methodology for Evaluating Influences of Anthropogenic Factors on Temperature Formation of Summer Seasons Considering their Randomness-Verification Through the Hierarchical Bayesian Model-(夏季の気温形成への人為的要素の及ぼす影響を評価するためのランダム性を考慮した手法-階層ベイズモデルによる検証を通して-)」。都市の温暖化であるヒートアイランド現象を詳細に予測するための数学的なモデルを構築し、GIS(地理情報システム)を用いて、空間統計の手法により検証したものです。

特に、気温形成という気象現象は静的なものではなく、多くの要素が複雑に絡み合っています。結果的に、ランダムに状況が変化するので、そのランダム性を適切に考慮することがモデルを構築する上での鍵となります。客野教授の研究では、これを考慮するに当たり、近年注目されているベイズ統計の枠組みを使用したことに特徴があります。このモデルによって、近畿圏の夏季の気温形成を予測したところ、高い精度での予測が可能となりました。



読者アンケート&プレゼント

関学ジャーナルのアンケートにご協力ください。ご協力いただいた方の中から抽選で10名様に「KGフェイスタオル(三日月)」(85cm×35cm)をプレゼントします。右記QRコードからアンケートにお答えください。締め切りは2017年9月15日(金)。当選は発送をもってかえさせていただきます。

※お寄せいただいた個人情報、はプレゼントの発送以外では利用いたしません。

関学ジャーナルへのご意見・ご感想はWEBでも受け付けています。▶関学ジャーナルご意見・ご感想フォーム URL→<http://www.kwansei.ac.jp/form/kgjm.html>



スマートフォン



パソコン URL ↓

<http://www.kwansei.ac.jp/r/kgjournal/>

保護主義の影響



私に
一言
わせて!



国際学部教授
(アメリカ経済論、アメリカ産業分析)

宮田 由紀夫

20 17年1月に発足したアメリカのトランプ政権は選挙公約どおり、TPP(環太平洋パートナーシップ)から離脱し、保護貿易主義を強めています。トランプ政権はさまざまな点で異色・異端ですが、共和党のこれまでの経済政策ともかけ離れています。保護主義政策をとるのはこれまでは労働組合を支持母体を持つ民主党でした。共和党は自由貿易を支持してきました。保護主義とともに企業に国内での操業を依頼したり恫喝したりすることによって製造業の復活を図るというのは、特定の産業の振興を目指す産業政策です。これも、産業の盛衰は市場が決めるもので政府が介入すべきでないという共和党の伝統とは異なります。一方、政策が近いからといって議会民主党がトランプ大統領を支持するとも思われません。トランプ政権の政策が議会でどのような支持を得るのか不確実な要素が大きいといえましょう。

ただ、トランプ政権の保護主義は選挙目当てであることも注意すべきです。アメリカでは共和党支持の州(党の色にちなんでRed Statesと呼ばれます)と民主党支持の州(Blue States)にはっきり分かれます。勝敗を決めるのは少数のSwing States(振り子のようになり支持が変わる州)です。昨年の大統領選挙でトランプ陣営は巧みに工場労働者の多い、ミシガン、オハイオなどを獲得するために保護主義を打ち出しました。TPPからの離脱は農業にとってマイナスです。しかし、農業のさかんなネブラスカやカンザスは伝統的にRed Statesで、共和党候補が必ず勝利するのでリップサービスは不要だったのです。しかし、農業の利益を無視できませんから、今後の個別の通商交渉では農産物の対日輸出は問題になるでしょう。

自由貿易は理論上、双方の国に利益になることは明らかです。「アメリカ第一主義」と自由貿易とは矛盾しません。しかし、恩恵が多くの消費者に薄く広く分配されるのに対し、損害は少数の生産者に集中します。後者は政治家に陳情する費用を厭いませんから、一生懸命保護を訴えます。政治家は大きな声に耳を傾けるので政策は歪められます。理論上正しいからと市場万能主義を唱えるだけでなく、自由貿易の効率性を維持しつつ、損害を受ける部分にはケアをするという政策を行わないと結果として自由貿易は維持されなくなります。



総合政策学部教授
(国際経済、開発経済、財政学)

坂口 勝一

英 国のEU離脱、トランプ政権の誕生、ヨーロッパ主要国における極右政党の躍進などにより、「保護主義の高まり」が懸念されています。

世界各国は、自由貿易のメリットを享受しながら成長発展してきました。戦後70余年を振り返ると、先進国、途上国を問わず、自由な貿易や投資といった開放的な対外政策をとってきた国の成長パフォーマンスは高いという結果が出ています。「東アジアの奇跡」と称される高成長を成し遂げた東アジア諸国、鄧小平の「改革開放」政策への転換によって驚くべき発展を実現した中国、国家破産寸前の経済危機を自由化政策への切り替えで乗り越え、その後着実な成長を遂げているインドなど、自由貿易による発展モデルは枚挙にいとまがありません。そして、自由貿易は世界の人々の生活水準を向上させ何億人もの人々を貧困から救い出しました。

ではなぜ今、反対する声が高まりを見ているのでしょうか。それは、自由貿易によって被害を受ける人たちの苦しみが増えている、その苦しみを和らげることが世界経済の成長鈍化などの中で、難しくなっているからです。

自由貿易は、各国間のモノ・サービス・カネの自由な取引を通じて経済活動を活性化させ、経済を発展させようという政策です。しかし、経済発展は競争力を失った産業や既存の仕組みが壊れていく過程でもあるので、さまざまな「ひずみ」が生じます。外国との競争に負けた企業からは失業者が出ます。新たな産業が誕生して失業者を雇用してくれるればいいですが、そうなるとは限りません。

モノ・サービス・カネのみならず、ヒトの移動も自由な「単一市場」を作り発展を目指してきたEUモデルも困難に直面しています。離脱を決めた英国の国民投票は無制限な移民の受け入れで雇用、生活、安全が脅かされている英国国民の反発の表れです。

どうすればいいのでしょうか。保護貿易に舵を切ること一番愚かなことです。1930年代の世界恐慌時に各国が貿易制限を強化し、結果、恐慌がさらに悪化したという教訓に学ばなくてはなりません。

自由貿易を維持するには、「ひずみ」に丁寧に対応していくしかありません。アメリカであれば格差、EUであれば、格差、移民・難民問題、さらにはユーロ問題で露呈した財政や銀行セクターの問題などにどれだけ有効な手が打てるかでしょう。日本も基本的には格差の是正とそのための成長が課題です。できなければ自由貿易体制の維持はかないません。われわれの英知が試されています。

社会で話題になっているテーマに対して、教職員の考えを聞きました。



世界の街角から

Republic of the Philippines

オール・アジア・アビエーション・アカデミー
(フィリピンの航空パイロット養成学校)
営業担当

川口 了子さん

(2014年総合政策学部卒)



↓観光地で有名なボラカイ島の夕日



ここには 私の求めるものが全てある

フィリピンは、日本から4時間程
度と近く、観光や英語留学先とし
ても人気のある国です。さて、そん
なフィリピンと私との出会いは遅
く、大学4年生の夏休みでした。最
後の夏休みは今までは一味違う
ものにしたいたいと思い、海外インタ
ンシップを運営する学生団体「アイ
セック」に応募し、フィリピンで貧困
の子どもに対する教育に約1カ月

間携わることにな
りました。

実際にマニラに
到着すると、治安

も悪そうで不安でした。しかし、ア
イセックの提携先であり、留学先提
携校でもあるアテネオ大学で、現地
の大学生や子どもたちと交流を重
ねるうちに、イメージしていたフィリ
ピンとは違う一面が見えてくるよう
になりました。フィリピン
人は、陽気で世話好き
な人ばかりだったので、
実は、これまで、米国、ス
ペイン、タイ(交換留学)に
住んだ経験があり、どの
国も好きだった私にとって、
今後どこに住みたいかと考
えた時、一つの国に絞るこ
とは困難でした。そのよう
な思いを巡らせている中で、
フィリピンは昔、スペインや
米国の植民地だったため、
私が好きなのそれぞれの文
化を今でも受け継いでいま

がフィリピンにまた行きたい、英語
能力を十分に生かしたいという思い
から、フィリピンでの職を探し出し、
こちらに移住しました。現在は、マニ
ラ支部弦月会を通して知り合った
先輩が所属する会社が経営してい
るパイロット養成学校の営業担当
として働いています。

フィリピンとの出会いは関学から
始まりました。今ではマニラ支部弦
月会の一員として、関学との関係が
続いていることをうれしく思うと同
時に、感謝しています。海外で就職
したいという夢のある方、最初に踏
み出す勇気が必要だと思いますが、
ぜひチャレンジしてみてください。関
学は世界中に同窓会がありますの
で、そのコネクションも生かしてみ
てはいかがでしょうか。きっと、日本
では味わうことができない、一味違う
世界が待っていると思います。



↑マニラ支部弦月会のメンバーとゴルフコンペ

した。それに加
え、気候はタイ
に近く、まさに
私の求める全
てを兼ね備え
た国でした。
大学卒業後
は日本で一度
就職しました

協定校紹介

Republic of the Philippines

アテネオ・デ・マニラ大学 Ateneo de Manila University

1859年にイエズス会によって創立された、長い歴史と伝統を誇るカトリック系総合大学で、首都マニラから約15*のケソン市に位置しています。卒業生には大統領や政界のリーダーも数多くおり、フィリピンを代表する大学です。

関西学院大学とは1980年代からACUCA(アジアキリスト教大学協会)を通しての交流が行われ、2011年に学術交流協定および学生交換協定を締結して交換留学が開始されました。大学の授業は主に英語で行われていますが、フィリピンの国語であるフィリピン語で開講されている科目もあります。緑豊かなキャンパスに最新鋭の図書館、プールなどのスポーツ施設も整い、快適なキャンパスライフを送ることができます。





大学図書館ホームページでは、WEBデータベースや図書館活用術など、幅広い情報を分かりやすく紹介しています。教職員の最新情報も随時更新。「関西学院大学図書館」で検索！

大学図書館の旬な情報をお届け

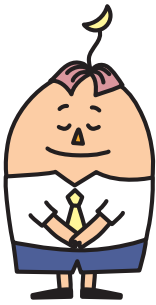
Libraring

西宮聖和キャンパス図書館 長期休館のお知らせ

西宮聖和キャンパス図書館はレイアウトを全面的にリニューアルするため、下記の期間、休館します。

ご迷惑をお掛けしますが、ご理解・ご協力のほどよろしくお願い致します。

リニューアル後は同じカテゴリーの図書が同じフロアに配架されるため、図書が探しやすくなります。



休館期間

2017年8月1日(火)~9月19日(火)

※休館の詳細については、
大学図書館ホームページのNEWS&TOPICSをご覧ください。



大学図書館ホームページの
NEWS&TOPICS
<http://library.kwansei.ac.jp/news/nsw/2410>

教職員の新刊

関西学院大学神学部ブックレット09
平和の神との歩み

関西学院大学神学部編
キリスト新聞社

浜辺の文学史

北村昌幸文学部教授分担執筆
三弥井書店

主体の論理・概念の倫理

米虫正巳文学部教授共編
以文社

心理調査の基礎

三浦麻子文学部教授分担執筆
有斐閣

貧困と地域

あいりん地区から見る高齢化と孤立死
白波瀬達也社会学部准教授著
中央公論新社

新しい視点で考える
犯罪と刑事政策

鮎川潤法文学部教授著
昭和堂

福祉にとっての歴史
歴史にとっての福祉

今井小の実人間福祉学部教授共編著
ミネルヴァ書房

外国語習得に成功する
学習プロセス

吉田ひと美国際学部専任講師著
大阪大学出版会

大学経営国際化の基礎

石原俊彦経営戦略研究科教授監修
関西学院大学出版会

エッセンシャル連結会計

山地範明経営戦略研究科教授著
中央経済社

ASEAN経済共同体の成立

市川顕産業研究所准教授編著
中央経済社

久山康先生
その思想と実践

『久山康先生 その思想と実践』刊行・編集委員会編
関西学院大学出版会

企業家精神のダイナミクス その生成、発展および発現形態のケース分析

本書は次のような研究課題を明らかにしています。すなわち、企業家精神(アントレプレナーシップ)とは何か、企業家はいつ、どのようにして企業家精神を発揮するのか(ビジネスチャンスをどのようにして発見し、それをどんな形のビジネスモデルに構築して新市場を開拓するのか)、また企業家精神はどのようにして育成されていくのか、企業家精神の発揮が失敗するのはどのような理由によるのだろうか、などがそうです。



佐藤善信・経営戦略経営科教授著 270ページ 関西学院大学出版会

正当性の社会心理学 海と草原と基地が問う「社会的決定の権利」

私たちの利害を左右する決定を誰かがするとき、その「誰か」の決定権を、私たちはどんな理由から承認(または否認)するのでしょうか。身近な人間関係から学校や職場での意思決定、国家による政策決定まで、「多数の人々に影響の及ぶ決定を下す権利を、人は誰に、どんな根拠から認めるのか」が問われる場面は多様に存在します。本書では、人々が権利の正当性を承認する過程について、国内外の調査やゲームを用いて調べた結果を概説します。



野波 寛・社会学部教授著 172ページ ナカニシヤ出版

いつも、塩で味付けされた快い言葉で語りなさい。
そうすれば、一人一人にどう答えるべきかが分かるでしょう。

コロサイの信徒への手紙 4章6節

いまもテレビでは、ジャーナリストの池上彰さんがひっぱりだこです。テレビと教壇との違いはありますが、多くの人びとにむけて情報を伝えるという点では、提示資料だけでなく、印象的でわかりやすい例え話など、私にも大変に参考になっています。

池上さんの番組を観て、何よりも感じることは、一つ一つの話題について入念に準備をされているということですね。言葉で何かを伝えることは本当に難しいことだと思います。ただ「しゃべる」ことと、何かを他者に伝えるために「話す」「語る」「ことの間」には大きな違いがあります。何かを伝えるためには、どのような表現を用いるか、どのような資料を用意するか、工夫と準備が必要です。言葉を「塩で味付け」することが大切です。

素材の味わいが一番大切ですが、その味わいを塩はさらに引き立たせます。しかし、多すぎても少なすぎてもいけません。良い塩加減には修練、そして熟練が必要です。聖書は福音を伝えるために、何にもまして、神の力をえて語りなさいと教えているのだと思います。けれども私たちが何かを伝えることを考える際にも、この一節は貴重な示唆を与えてくれるのではないのでしょうか。

編集後記

先生たちの研究は、私たちの生活のさまざまな場面に関わっている。話を少し聞いただけでもたくさん驚きがあり、好奇心がくすぐられ、「学生時代に戻って授業を受けたい！」と何度も思ってしまった。自分の学部だけでなく、違う学部の先生の話を聞くことも面白いはず。新しい発見や、面白いアイデアに出合えるかもしれません！（りよ）

関西学院大学 Facebook



いいね!

関西学院大学の身近なニュース、キャンパス風景、動画などを紹介。英語版ページもますます充実。「いいね!」をして関西学院大学の情報をゲットしよう。



日本語版

英語版



人と自然をつなぐ、伝統と革新をつなぐ。

かつて先人たちが理想を追い、
実現してきたデザインや技術は、
現代に伝統として受け継がれています。
竹中工務店は、その伝統を尊びながら、
常に新しい価値や試みを取り入れ、
革新的なデザインや技術を
創り出すことを目指しています。
人と自然が共に豊かになるには
どうしたらいいのか、
未来の環境をつくる使命を持って
新しい建築を世に送りだしていきたい。
そして、10年後、20年後、100年後、
その建物が「新しい伝統」になり、
未来の建築家たちの
礎になることを願っています。
「最良の作品を世に遺し、
社会に貢献する」
竹中工務店は、この経営理念のもと、
建築の可能性を追い求めていきます。

写真：竹中工務店 設計施工：竹中工務店
兵庫県神戸市、六甲山の麓にある日本で唯一の
大工道具の博物館。

想いをかたちに 未来へつなぐ

TAKENAKA